

デジタル庁が取り組むウェブアクセシビリティの向上

2025年5月

デジタル庁戦略・組織グループ 参事官補佐 坂本秋彦

目次

1. はじめに
2. デジタル庁のミッション・ビジョン
3. デジタル庁ウェブサイトを中心とした取組
4. デジタル庁アクセシビリティチームの取組
5. デジタル庁デザインシステム等のご紹介

はじめに



デジタル庁戦略・組織グループ
参事官補佐 坂本 秋彦

自己紹介

- 警察官をご神体として祀る神社（※）の近くで育つ
- 父親が買ったものの使えないと投げ出したNEC製PC-8001mk II でBasicプログラミングの産湯に浸かる
- 公安職に憧れ入国管理局（現出入国在留管理庁）に入国警備官として採用
- 法務省入国管理局在職中バイオメトリクス技術を活用した出入国審査システムの実証から導入までを担当
- 2022年1月からデジタル庁参事官補佐

デジタル庁が掲げるミッションとビジョン

ミッション

誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を。

一人ひとりの多様な幸せを実現するデジタル社会を目指し、世界に誇れる日本の未来を創造します。

ビジョン

優しいサービスのつくり手へ。

Government as a Service

国、地方公共団体、民間事業者、その他あらゆる関係者を巻き込みながら有機的に連携し、ユーザーの体験価値を最大化するサービスを提供します。

大胆に革新していく行政へ。

Government as a Startup

高い志を抱く官民の人材が、互いの信頼のもと協働し、多くの挑戦から学ぶことで、大胆かつスピーディーに社会全体のデジタル改革を主導します。

デジタル庁ウェブサイトを中心とした取組

公共サイトが取り組むべきアクセシビリティの基準

- 総務省「みんなの公共サイト運用ガイドライン」
- JIS X8341-3（2016）
 - AA準拠を目指す
- WCAG 2.2
 - 今後ISO化され、次のJIS X8341-3に取り込まれることを見越した対応

アクセシビリティ対応の課題

- 仕組上の課題
 - コンテンツ管理システム（CMS）の課題
 - 様々なCMS製品のテンプレートがある中で個別対応することが難しい
 - HTMLで作成する場合、個々にアクセシビリティチェックを行うことは難しい
- 運用上の課題
 - 人的リソース
 - 省庁職員は概ね2年周期で異動があり、アクセシビリティの理解・習熟が難しい
 - アクセシビリティ基準が理解できても対応方法が分からない
 - 文書標記
 - 公文書自体が構造化されていないものも多く、PDF掲載するのみの場合も多い
 - 情報量が多いプレゼンテーション資料

デジタル庁における対応状況（仕組上の課題）

オープンソースCMSを活用して共通CMSを構築

- デジタル庁デザインシステムを反映
 - カラーパレット
 - タイポグラフィ
 - ボタン、リンクテキスト等のページ構成要素
- テンプレートやコンポーネントごとにアクセシビリティ対応を実施
 - 代替テキスト
- コンテンツはMarkdown記法で作成・更新

デジタル庁における対応状況（運用上の課題）

人的リソース

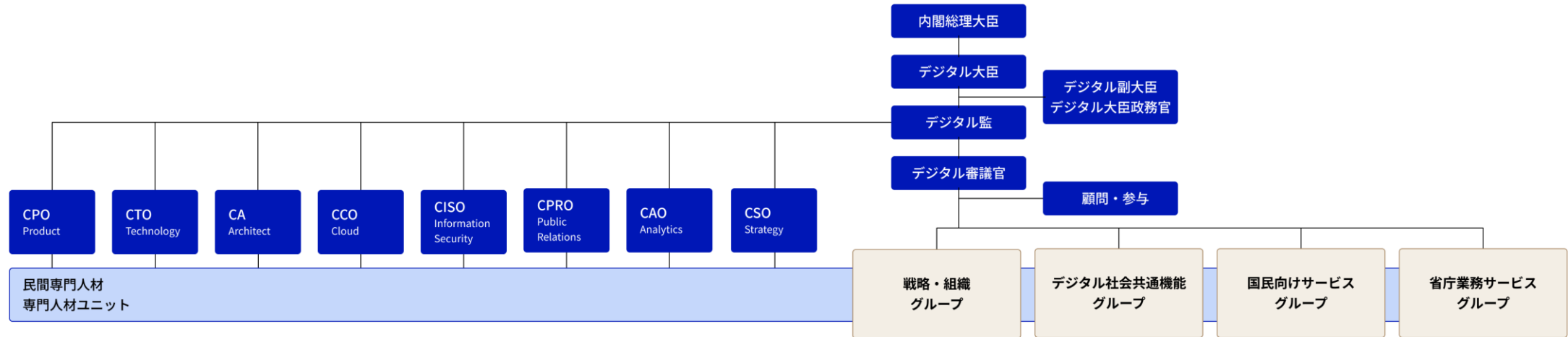
- コンテンツ作成をウェブサイト担当に集約
 - 各担当が作成したドキュメントをウェブサイト担当でリライト
 - 政策を知らない人が読んで理解可能か
 - 画像などの代替テキストが適切か など
 - アクセシビリティやデザインの専門家がサポート

文書標記

- 適正な見出し・ネストなどの表記の工夫
- PDF掲載の場合、可能な限りHTMLの平文でも掲載
- 複雑な図を分解して理解しやすく

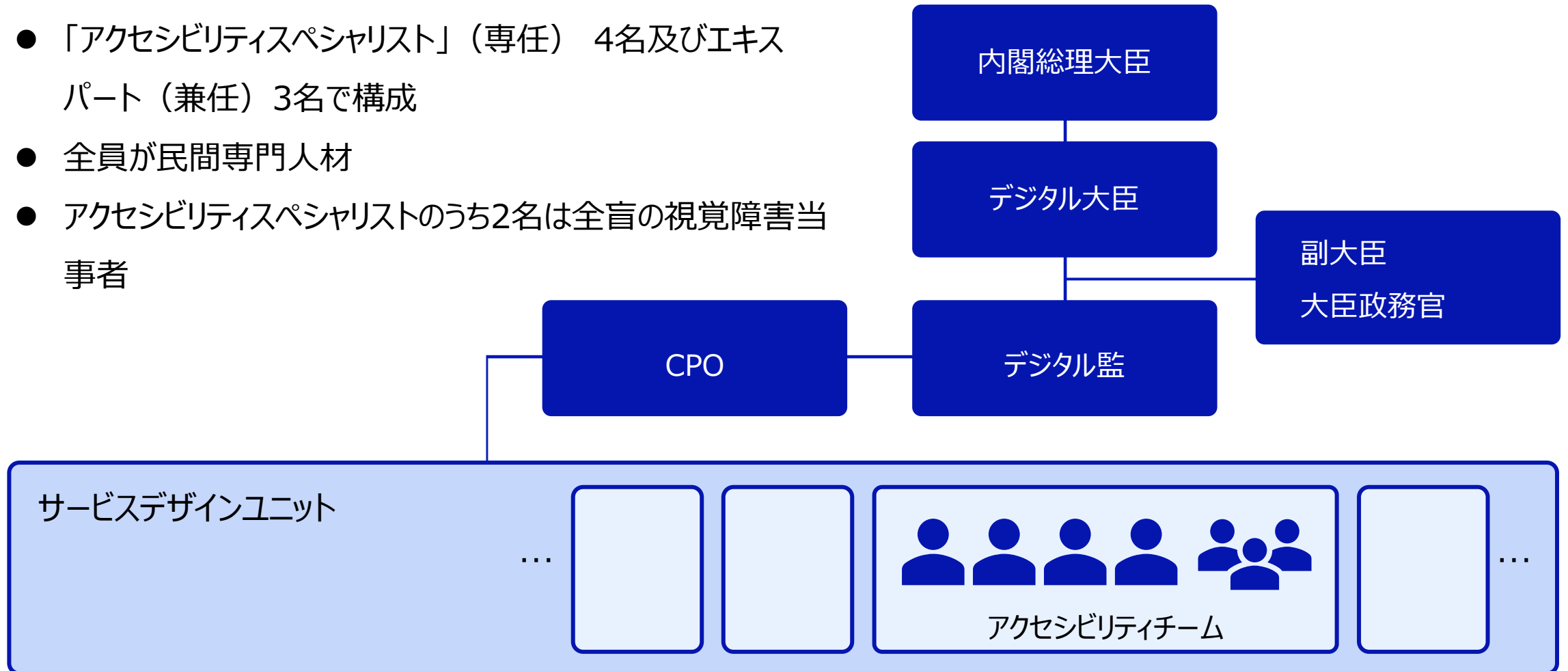
デジタル庁アクセシビリティチームの取組

行政人材と民間専門人材が協業するマトリックス型組織



アクセシビリティチームのご紹介

- サービスデザインユニットの中に組成
- 「アクセシビリティスペシャリスト」（専任） 4名及びエキスパート（兼任） 3名で構成
- 全員が民間専門人材
- アクセシビリティスペシャリストのうち2名は全盲の視覚障害当事者



ユーザーテストや勉強会の実施



庁内関係者向けテスト状況の共有

- ・ 視覚障害当事者の専門家が庁内のプロダクトのテストを実施している様子



政府ウェブサイトに関わる職員向けの勉強会

- ・ スマホのスクリーンリーダーを使ってウェブサイト等から情報を取得している様子

デジタル庁デザインシステム等のご紹介



アクセシビリティファーストで設計されたUIコンポーネント

トは、デザインやレイアウトの作成時に使用される仮の文章です。ダミーテキストを使用すると、デザインの全体像を評価したり、テキストの配置や長さを確認したりすることができます。ダミーテキストは実際の文章ではないので、内容には意味がありません。

[ホーム](#) > [ページ見出しが入ります 1](#) > [長いページ見出しが入ります 2](#) > [長いページ見出しが入ります 3](#)

フッターエリア

メニュー

メニュー

メニュー

ログイン

アカウントID（メールアドレス） **※必須**
サポートテキストが入ります。

パスワード **※必須**
サポートテキストが入ります。

ログイン

[戻る](#)

[パスワードを忘れた方はこちら](#)
[アカウントを持っていない方はこちら](#)



カードの期限切れ

カードの有効期限切れにより手続きを行うことができませんでした。お近くの自治体で再発行が必要です。

再発行方法を見る

[閉じる](#)

ログイン

アカウントID（メールアドレス） **※必須**
サポートテキストが入ります。

パスワード **※必須**
サポートテキストが入ります。

ログイン

[パスワードを忘れた方はこちら](#)
[アカウントを持っていない方はこちら](#)

本人確認 (2/3)

書類アップロード

+ 画像を追加

免許証(表).jpeg **× 削除**

免許証(裏).jpeg **× 削除**

< 前へ

次へ >

メンバ

デ
tar

デ
hil

出
ch

電
tar

デザインシステムを採用するメリット

WCAG 2.2（ウェブアクセシビリティの最新の国際基準）の達成基準

86個

デジタル庁デザイン
システムを利用する
だけで

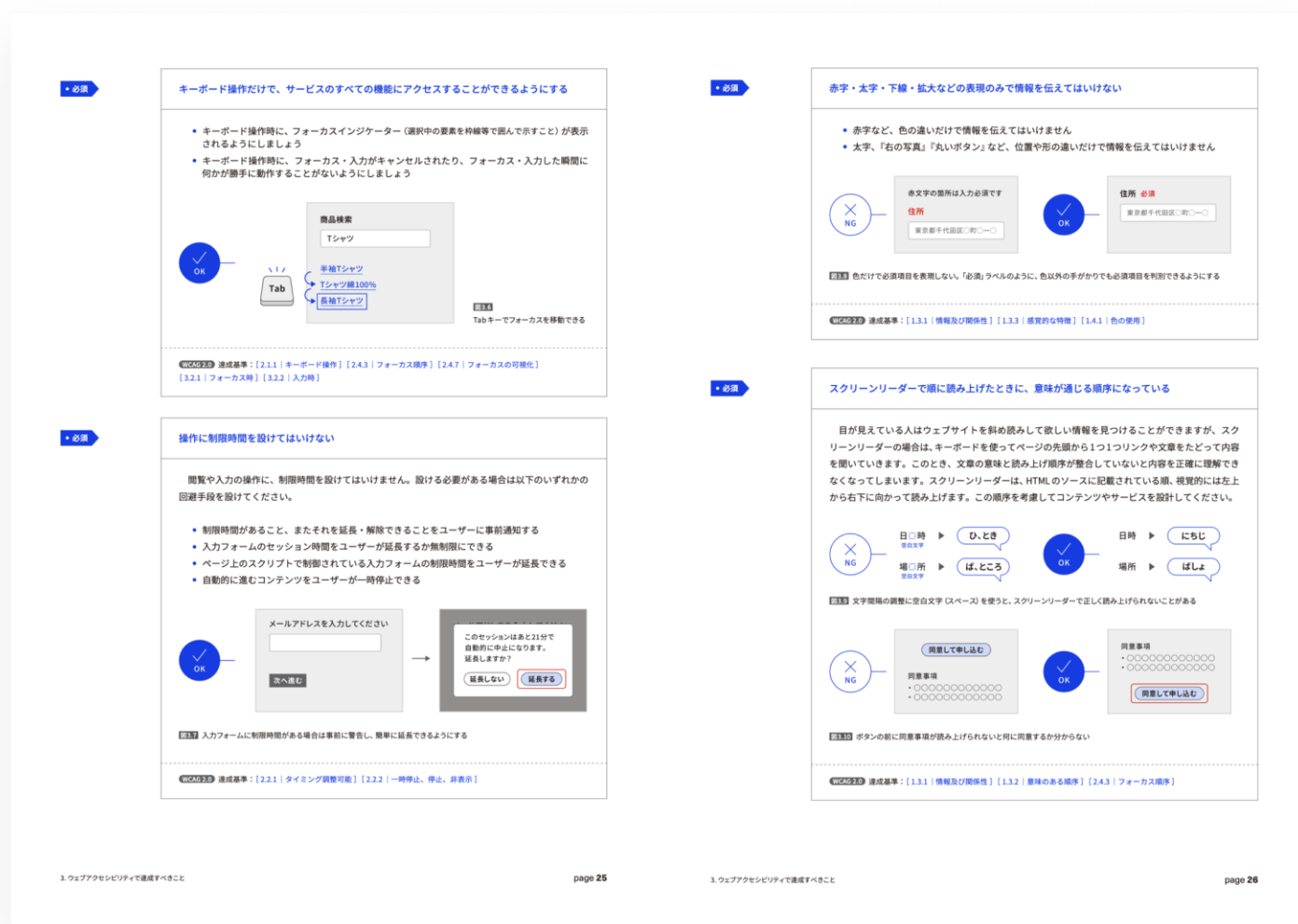
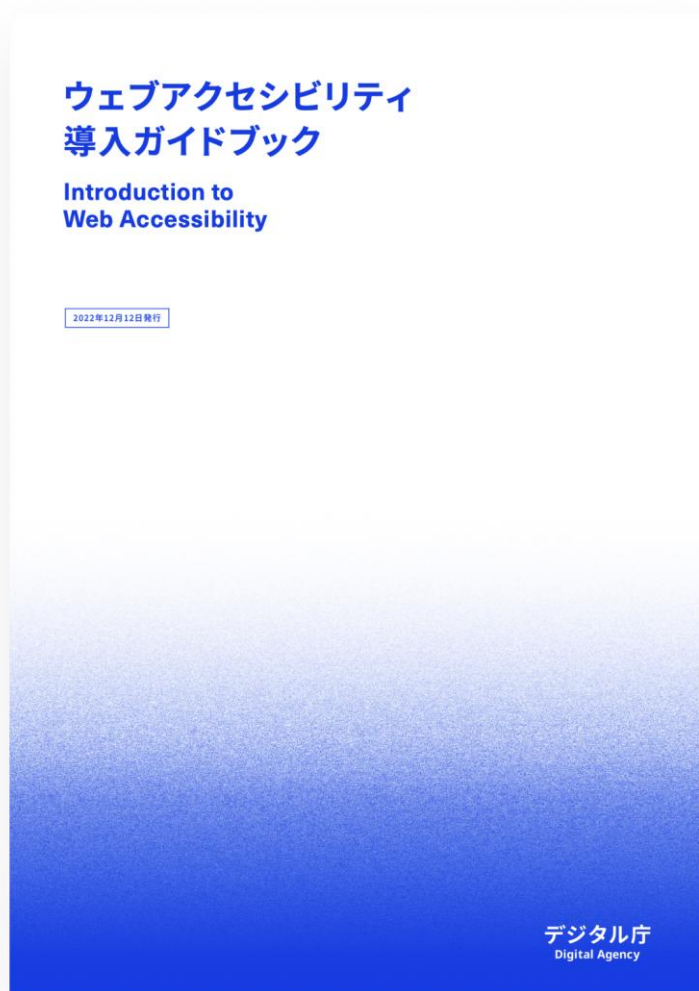
「適合できる」または「適合が容易になる」達成基準

43個

更に！

- コンポーネントやパーツの呼び名が統一化されることで、コミュニケーションコストが低下
- 一から画面設計を行う必要がなく、パーツを組み合わせることで設計のコストが低下
- 別々のサービスでも同じ場面で同じ利用体験ができるため、利用者の学習コストが低下

ウェブアクセシビリティ実装の参考となるガイドブック



デジタル庁
Digital Agency